

報 告

ヒポクラテスの箴言「人生は短く、術のみちは長い」について

齊 藤 博

はじめに

ヒポクラテスは紀元前460年頃、ギリシアのコス島の生まれで、医神、医聖とも言われ尊敬されている。ヒポクラテス関係の著述は、医術が主であるが、哲学、倫理、自然科学の全般にわたっており、後年、『Corpus Hippocraticum』（『ヒポクラテス全集』、『全集』）としてまとめられている<sup>1-5</sup>。

『全集』の箴言1-1には、「ὁ βίος βραχύς, ἡ δὲ τέχνη μακρή」<sup>2</sup>（ホ ビオス ブラキユス ヘデー テクシー マクレ）とあるが、「μακρή」はイオニア方言で、現代、伝えられている古典ギリシア語では、「μακρά」(マクラ)である。Jones訳では、「Life is short, the Art long」<sup>2</sup>である。この有名な箴言は、後世、多数引用されているが、訳文や引用により、その意味は多少異なっていると考えられる。本論考は、ヒポクラテスが箴言1-1で何を言っているか、と同時に、後世、どのように引用、解釈されてきたかを検討したものである。また、ゲーテは『ファウスト』で、この箴言を生命と術の順序を逆転させて引用しているので、これらの点を検討した。

ὁ βίος βραχύς, ἡ δὲ τέχνη μακρά

箴言は対句で、長短で対比され、簡明で、美しい。ただし、対比を考えるなら、人と対比されるのは神とか自然であり、術に対比されるのは知も考えられる。

ラテン語訳は、「vita brevis, ars vero longa」であるが<sup>6</sup>、「vita brevis, ars longa」と、veroが削除されている場合もある。veroは副詞で、真に、實に、確かに、しかし、かえって、反対に、である。

日本語訳は、「人生は短く、術のみちは長い」(石渡隆司訳)<sup>3</sup>、「生命は短く、術は永遠である」(今裕訳)<sup>4</sup>、「生命は短く、学芸は永い」(二宮陸雄訳)<sup>6</sup>、「人生は短く、技術は長い」(柳沼重剛訳)<sup>7</sup>がある。その意味するところは、“人生は短いから、術を修めることは難しい”、“命は短く、学芸はなり難い”、“人生は短く、芸術は永遠である”とも解釈される。

ギリシア語やラテン語の日本語訳は、英語、ドイツ語からの重訳が多いことから、翻訳や解釈が異なることがある<sup>8,9</sup>。また、術は τέχνηとars、神は θεός (テオス)とdeusであるが、ギリシア語とラテン語とでは、多少意味が異なると考えられる。

τέχνη (術) と θεός (神) について

『全集』には、「医術はすべての術のなかでもっとも卓越している」(法1)<sup>2,3</sup>とある。また、「いろいろな術(複数対格形, Jones訳ではarts)の悪口を言うことを自分の術(単数対格形, art)としている人たちがいる」(術

埼玉県川越市鴨田辻堂 1981

埼玉医科大学総合医療センター泌尿器科

〒350-8550

について1) <sup>2,3</sup>, とも書かれている。

『全集』<sup>3</sup>の脚注には、「τέχνηは、古代ギリシアにすばらしい人間文化をつくり上げた実質的な専門的な〔術〕のこと。鍛冶工、陶工、石工などの加工や製作を主体とする技術から、作詞、音楽、絵画、計算、医術など広く文芸、学問をも含む概念となった。神の世界の術を人間世界にもたらしたといわれるプロメテウスの神話にも象徴される要素をこの〔術〕は含んでいた。一方〔単数対格形ででてくるこの術〕は、前の術（複数対格形ででている〔術〕）に対して、これとは全く対蹠的なソフィスティックな術、つまり ἀτεχνία（術でないもの）を指している」とある（今井正浩）<sup>3</sup>。

「（この箴言）元はギリシア語だが、ラテン語訳の方がはるかに有名になっていて、しばしば〔芸術は長く、人生は短し〕と引用されている。ヒポクラテスは医学者だから、彼がここで言う技術とは医術のことで、〔医者的一生は短いものだが、医術の生命は長い〕という意味になる。その〔技術〕が〔芸術〕という日本語にされたのは、ラテン語 ars longa は英語なら art is long で、art は〔芸術〕だと安直に理解され、しかもそのうえ、〔技術は長く…〕というよりは〔芸術は長く…〕とした方が、言葉として意味深長に響くからであろう。しかし、18世紀以前に関しては、ars（あるいは art）を〔芸術〕と訳したら、ほとんどの場合誤訳となる」とある（柳沼重剛）<sup>7</sup>。

『全集』では τέχνη を医術と訳しても良いと考えられるが、ἰητορίη（イエトリエ、イオニア方言 ἰάτοριᾱ, イアトリア）も使われている（法）<sup>2</sup>。イアトリアは、使用されている個所により、医術とも、医学とも、医療とも訳される。

ピュタゴラスは、自分自身、知を愛する人（φιλόσοφος, フィロソフォス；哲学者）と言った最初の人であるが<sup>10</sup>、「ピュタゴラスの徒は、知識のうちでは、一番音楽と医学と予言とを尊重した」と記載されている<sup>11</sup>。知（σοφία, ソフィア）には哲学、詩、教養の総てが含まれており、知と術の境界は明確ではない<sup>11-13</sup>。

そもそも、ギリシア神は具体神であるのに対して、ローマ神は物に内在する観念神と言われており<sup>14</sup>、神と人間との関係は、一神教と多神教、あるいは、ギリシアとローマとでは、多少異なるものと考えられる。ギリシアでは神と人間が共存していた。人（ἄνθρωπος, アントロポス）と神（θεός, テオス）以外に、両親の片方が神性の半神（ἥρως, ヘロス）や、神に等しい人（ἰσόθεος, イソテオス）もいた<sup>2, 15, 16</sup>。それは、ホメロスの世界でもあった<sup>17</sup>。そこでは、神々の争いは人間同士の争いとなり、神々も人間と争っていた。

ギリシアの神々は嫉妬深い。人は嫉妬深い神々を怒らせないように、物事をなすに当たり、犠牲を捧げ、誓いを立てている<sup>17</sup>。ギリシア神話では、技術の守護神アテナは、織物の技術でアテナに挑戦した人間アラクネを罰した。アラクネは首をくくって死んだが、アテネは彼女を蜘蛛として生かした<sup>15</sup>。人に火をもたらしたプロメテウスは、ゼウスに罰せられた<sup>18</sup>。人間は技術の究極に到達してはいけないものかもしれない。そこは神の世界であり、最高の技術者は神であった。神の術は永遠である。

医術においても同様で、アポロンを筆頭に、アスクレピオス、ヒュギエイア、パナケイアなどの医神や半神がいる<sup>2, 19</sup>。ヒポクラテスの誓いはこれらの医神への誓いで始まる<sup>2, 3</sup>。ただし、『全集』の「誓い」では、「Ἀπόλλωνα ἰητρὸν」（アポロナ イエトロン）、（Jones 訳では、Apollo Physician）で、日本語訳は「医師アポロン」（小川政恭訳）<sup>20</sup>が正確な訳であるが、アポロンは医の最高神であり、男神、女神が続くことから、「医神アポロン」（大概マミ太郎訳）<sup>3</sup>、（今裕訳）<sup>4</sup>と訳されている<sup>5</sup>。

アスクレピオスは、父は神アポロン、母は人間コロニスであることから、半神（ヘロス）である。半神であるアスクレピオス<sup>6</sup>の術の道は長くとも、いつかは人間が到達できるものかもしれない。しかし、神（テオス）アポロンの術は永遠で、人間のうかがい知れないものではなからうか。

## 人生は短いについて：旧約聖書、ブッダ、孔子、ザラスシュトラ

人生は短いという考え方は、古くからあったと推測される。『旧約聖書』には、「女から生まれた人間は、日が短く、心がかき乱されることでいっぱいです」（ヨブ記 14・1）、「私たちの齢は 70 年、健康であっても 80 年」（詩篇 90 - 10）<sup>21</sup> とある。

仏教の開祖であるゴータマ・ブッダ（釈尊）の、最も古い仏典とされる『スッタニパータ』にはブッダの伝承として、「ああ短いかな、人の生命よ。百歳に達せずして死す。たといそれよりも長く生きたとしても、また老衰のために死ぬ」<sup>22</sup>とある。「どのように生きるのが最上の生活であるというのか？」というのが仏教の中心問題とされている<sup>22</sup>。ブッダの生年は不明であるが、紀元前約 428 – 383 年とすれば<sup>22</sup>、ヒポクラテスとほぼ同時代の人である。

孔子は紀元前 551 – 479 年で、ヒポクラテスより若干古い。『論語』<sup>23</sup>には、「子の曰（のたま）わく、吾、十有五にして学に志し、三十にして立ち、四十にして惑わず、五十にして天命を知り、六十にして耳順（みみした）がう。七十にして心の欲する所に従って、矩（のり）をこえず」（為政第二）とある。また、「曾子の曰く、士は以って弘毅（こうき：おおらかで強い）ならざるべからず。任重くして道遠し。仁以て己（おの）れが任と為す。亦た、重からずや。死して後已（や）む。亦遠からずや」（泰伯第八）とある。人生の短さと、仁の道の重く、遠いことを述べていると考えられる。

ゾロアスター教は、創始者のはっきりしている世界最古の宗教である。ザラスシュトラ（ギリシア名がゾロアスター）は、紀元前 630 年頃、東イランの生まれで、ブッダより 170 年ほど前と言われている<sup>24, 25</sup>。ザラスシュトラはメーノーグ界（不可見界）を 3000 年、ゲーテーグ界（可見界）を 30 年間生き、77 歳の生涯で地上から去り、天界に赴いた。『アヴェスタ』には、「人間が誕生にさいして泣くのは、身体のひ弱なつくりを予見してである《死》。「男盛り（注釈、40 歳）で 30 年在世するものこそ、義者アズルワグ（清浄なことばをもつものの意）と、かの、ほかの 3 人」とある。

### 人生は短いについて：プロタゴラス、デモクリトス、ヒポクラテス

「人生は短い」の現在わかっている最も古い出典の一つは、プロタゴラスと思われる<sup>11</sup>。「神々については、彼等が存在するということも、存在しないということも、またその姿がどのようなものであるかということも知ることは出来ない。何故なら、それを知ることを妨げるものは多いから、すなわちそれは知覚することが出来ないのみならず、人間の生命も短いから」。

プロタゴラスは生年紀元前 470 年頃のアブデラの人で、デモクリトスに教えを受けている。デモクリトスの生年は紀元前 470 / 69 年で、プロタゴラスと同じくアブデラの人で、ソクラテスより一歳年長と言われている<sup>10</sup>。プロタゴラスの盛年は第 84 回オリンピック大会期（紀元前 444 – 441 年）で、70 歳、又は、90 歳で死亡したと伝えられている。ヒポクラテスの生年が紀元前 460 年頃とすると、プロタゴラス、デモクリトスともに、ヒポクラテスより十歳程年長である。

哲学者に関する現存する唯一の文献であるラエルテオスの『哲学者列伝』<sup>10</sup>では、デモクリトスはヒポクラテスとの会話が残されている唯一の哲学者で、ヒポクラテスはデモクリトスの弟子であったという記載がある<sup>6</sup>。『全集』での、ヒポクラテスがデモクリトスにあてた書簡では、「予は高齢に達しても医術の究極に達することはできない。併し又発見者たるアスクレピオスといえども、矢張り究極を極めたものではないであろう」<sup>4</sup>と述べているが、この箴言の説明とも考えられる。デモクリトスは、「愚かな者たちは、長い人生を楽しまないで、そのくせ長い人生を切願している」<sup>26</sup>と述べている。

プロタゴラス、デモクリトス、ヒポクラテス、は互いに知り合いで、この箴言はこの様な状況下で生まれたのかもしれない。しかし、三人の考え方は異なっており、プロタゴラスは“神を知るには人生は短く、神を知ることにはできない”，ヒポクラテスは“術のみちは長く、人生は短く、生涯のうちには達成することは出来ない”と、神を知ること、術を修めることを、人生の目的としているのに対して、デモクリトスは“人生そのもの、生きること”を、人生の目的として、三者三様に、“人生の長短”について語っていたと考えられる。

### 人生は短く、術のみちは長い。機会は逸し易く、試みは失敗すること多く、判断は難しい。

箴言 1 – 1 は「人生は短く、術のみちは長い」に続いて、「機会は逸し易く、試みは失敗すること多く、判断

は難しい。」とあるが、その一つの解釈として、『判断は難しい』は、患者は体質、性別、年齢、環境、経歴が様々である。それ故に治療法が全ての患者に共通して有効ではない。患者の病気の状態をよく観察しなさい。そして各人の特性を鑑別しなさい。そのために医術の研鑽を怠ってはならない。「機会は逸し易い」は、患者の特性を知ったとしても患者の状態は絶えず変化しているから、適切な時期を捉えることが求められる。「試みは失敗すること多し」は、治療するにさいし、試行錯誤的なところみをしてはならない。「術の道は長い」はこうしたこと全てをこころえるための術の道は遠く、長い。「人生は短し」は、ところがそのために与えられている人生はあまりに短い。』がある。

### 『人生の短さについて』：セネカ、アリストテレス

セネカは紀元前5／4－後65年の政治家で、ネロの命により自殺した。セネカはヒポクラテスより400年以上経っている。セネカは、『de brevitae vitae』（『On the shortness of life』、『人生の短さについて』）で、「vitam brevem esse, longam artem」と引用している<sup>27</sup>。英訳は「life is short, art is long」<sup>27</sup>、日本語訳は「生は短く術は長し」（茂手木元蔵訳）<sup>28</sup>である。セネカは「医家のなかでも最も偉大な医家の発言」としているが、ヒポクラテスの引用であることは確かである。また、セネカは言っている。「しかし、われわれは短い時間をもっているのではなく、実はその多くを浪費しているのである。人生は充分に長く、その全体が有効に費やされるならば、最も偉大なことをも完成できるほど豊富に与えられている」。

他人の言葉をどのような意味で引用するかは、引用者により異なるが、セネカは“人生の短さ”について述べており、“術”については触れていない。また、「最も偉大なこと」とは何かは、セネカの文からは、著者には読み取れない。

セネカは、『人生の短さについて』のなかで、アリストテレス（紀元前384－322年）を引用している。アリストテレスはヒポクラテスより約80年後である。「アリストテレスも自然を相手どって、賢者にふさわしくない告訴を行っている。『寿命という点では、自然は動物たちに人間の五倍も十倍も長い一生を引き出せるように許しておきながら、数多くの偉大な仕事のために生まれた人間には、遥かに短い期間しか存在しない』と<sup>28</sup>。アリストテレスは人生を動物、或いは、自然と対比させている。

### 14世紀のヒポクラテスの肖像画

写真1は、14世紀のビザンチンの画家によるヒポクラテスの肖像画で、「イコンふう絵画」<sup>29</sup>と言われているものと考えられる（パリ国立博物館所蔵、文献1、206より複写<sup>1</sup>）。「イコン」はギリシャ語の「イメージ」という語である<sup>30</sup>。ギリシア正教では聖像（イコン）を意味しているが、イコンではないが、一見イコンのように見える「イコンふう絵画」とでもいべきものがある<sup>29</sup>。ビザンチン派のイコンは、宗教芸術の表現と言う以上に、神の顕現、神を現したもので、神聖な次元のもので<sup>31</sup>、神や聖人が描かれていることが多いことから、ヒポクラテスは14世紀には医聖、または、医神とみなされていたと考えられる。イコンには神、人物の名前が、名前が長い時はその省略形と、主題が言葉で描かれていることがある<sup>29, 30</sup>。この肖像画の上段には名前が、そして、主題の言葉として、持っている本に、このヒポクラテスの箴言がギリシア語で書かれている（写真2）。このことから、この箴言は14世紀には知られていたと推測される。

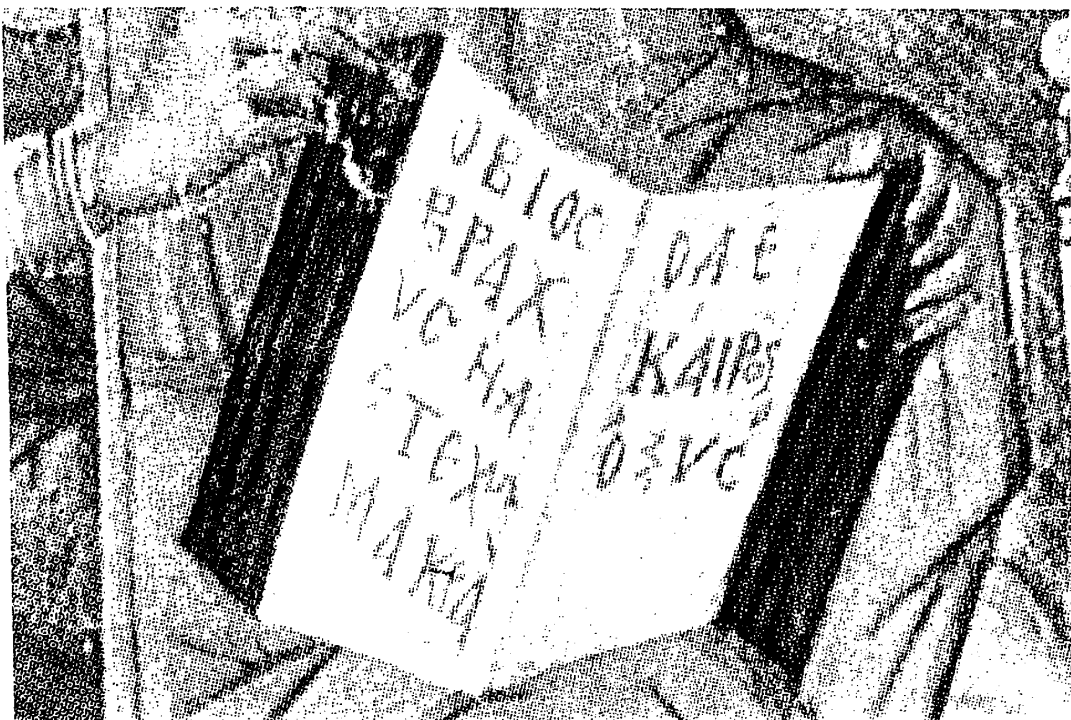
ただし、このギリシア語は、現代伝えられている古典ギリシア語、アッティカ方言とも、ヒポクラテスが使用したイオニア方言とも、一部、異なっている。14世紀、ビザンチン地方で使用されていたギリシア語か、あるいは、画家が、間違えて書いたとも考えられる。この肖像画の本に描かれている文字は、著者には下手に書かれたギリシア文字に見えるが、ギリシア語を書きなれない画家が、模写する時に間違えた可能性も考えられる。

ゴッホの「花咲く梅の木（広重による）」は、「名所江戸百景」《亀戸梅屋舗》<sup>32</sup>の模写であるが、そこに書かれている日本文字は、日本人が見たら、上手、下手と言うより、異様に感ずる文字である。ゴッホでも異国の文字を模写することは苦手と考えられる。

写真1 14世紀のビザンチンの画家による  
ヒポクラテスの肖像画



写真2 部分 ヒポクラテスの箴言が  
書かれている本



肖像画の上端には、文字が描かれており、はっきりとはしないが、著者には、**Ο Ιπλοκράτης Κωος**、コスのヒポクラテスでないかと推測される。ただし、ヒポクラテスの綴りは正確ではないが、母音を一部省略しているとも考えられる。

本の文字は、H (エータ;小文字は η), P (ロー;ρ), N (ニュー;ν), E (エ プシーロン;ε), A (アルパ;α)などで、大文字か小文字かはっきりしない文字がある。『全集』の写本には、大文字体と小文字体が伝えられている(大槻真一郎, 1-40)<sup>3</sup>。

CとSはΣ(シーグマ;言葉の末尾以外ではσ, 末尾ではς, 大文字はΣ)で、イコンでは、イエス・キリストはΙC ΧC (Ιησους Χριστος イエス クリトス;ギリシャ正教では、ロシア語式の読み方が正式で、И и сус Хр и с тос イイス ハリストス<sup>29</sup>)と表記される。ν(ニュー)とν(ユー プシーロン;大文字はΥ)は間違い易く、また、ラテン語ではUとVは同じである。著者がAと判読した字は、二種の異なる字体で書かれており、一つは、もともと、Δ(デルタ)かもしれない。紀元510年頃の写本では、AとΔは間違いやすいと言われている(大槻真一郎, 1-40)<sup>3</sup>。

本の文字の変更部分を( )で示し、現代伝えられている古典ギリシア語に書き換えると、

**Ο ΒΙΟC(ς) ΒΡΑΧv(υ)C(ς) Η Α(Δ)Ε ΤΕΧvε ΜΑΚΡΑ Ο Α(Δ)Ε ΚΑΙΡΟC(ς) ΟΞv(υ)C(ς)**

箴言1-1「人生は短く、術のみちはながい。機会は逸し易く、」(石渡隆司訳)<sup>3</sup>と読める。

#### シェクスピアの『マクベス』と、ディケンズの『クリスマス・キャロル』

シェクスピア(1564-1616)は、エリザベス朝ルネッサンス文学の巨星といわれている<sup>33</sup>。4大悲劇の一つ『マクベス』の最終幕(第5幕)に、人生の短さに関する独白がある。

Macbeth And all our yesterdays have lighted fools

The way to dusty death. Out, out, brief candle,

Life's but a walking shadow, a poor player (Macbeth, 5・5・21)<sup>34</sup>

マクベス いつも、きのうという日が、愚か者の塵にまみれて死ぬ道筋を照らしてきたのだ。消えろ、消えろ、つかの間の燈し火! 人の生涯は動きまわる影にすぎぬ。あわれな役者だ、(福田恒存訳)<sup>33</sup>

シェクスピアは、人生の短さについて述べているが、医学についても述べている。

Macbeth Throw physic to the dogs, I'll none of it. (Macbeth, 5・3・48)<sup>34</sup>

マクベス そんな医学は犬にくれてしまえ、おれには用はないぞ。(福田恒存訳)<sup>33</sup>

ディケンズ(1812-1870)は、イギリスの国民的作家で<sup>35</sup>、代表作『クリスマス・キャロル』には、「有益なことをするためには、生命は短い」と述べている。

“Not to know, that any Christian spirit working kindly in its little sphere, whatever it may be, will find its mortal life too short for its vast means of usefulness.” (Marley's Ghost, A Christmas Carol)<sup>36</sup>

「いかなることのためであろうと、熱心に力をつくしているキリスト教的精神の持主であるならば、さまざまな有益なことをするためには人間の生命は余りに短すぎると思うはずだということを知らないのか。」(マーレイの亡霊)(村岡花子訳)<sup>35</sup>

“My time grows short,” observed the spirit. “Quick !” (The first of the three spirits, A Christmas Carol)<sup>36</sup>

「私の時間は短くなった。急げ!」と幽霊は言った。(第一の幽霊)(村岡花子訳)<sup>35</sup>

“My life upon this globe, is very brief,” replied the Ghost. (The second of the three spirits)<sup>36</sup>

「この地球上における私の命はごく短い」と幽霊が答えた。(第二の幽霊)(村岡花子訳)これらはヒポクラテスの箴言からの直接の引用ではないが、時間が短いことに関する、間接の引用で、セネカの影響も考えられる。短いは、short 以外に、brief が使われているが、brief の語源は、βραχύς, brevis と考えられる。

ディケンズは short と brief と使い分けているが、「ともに短いという意味で long の反対であるが、short は時

間的にも空間的にも短いで、時間的に用いるときはしばしば中断したり、はしょったりする意を含む。briefは時間的な意味を含み、よくまとまっていて余分なものがなく簡潔であることを表すことが多い。また、shortには、〔不完全だ、足りない〕また、briefには、〔はかない〕という意味がある<sup>37, 38</sup>。著者には両者の使い分けをはっきりとは理解できないが、shortは時間の短さを多少具体的に表現しているのに対して、briefは漠然と、観念的に表現しているように感じられる。

### ゲーテの『ファウスト』

ゲーテ（1749－1832）はドイツの文豪で、『ファウスト』にこの箴言を引用している<sup>39</sup>。彼は24－26歳の時、『ファウスト初稿』（Urfaust）を書き、76歳の時に『ファウスト』（Faust）を一度完成させたが、再度書き直し、途中の中断の時期を入れると、実に82歳の生涯中、60年間と、ほぼ全生涯をかけて、書き続けている。ゲーテは医師ではないが、ヒポクラテスを知っていたことが、自伝的作品である、『詩と真実』に書かれている<sup>40</sup>。また、ゲーテは『ファウスト』で、シェクスピアの『ハムレット』の台詞を引用している<sup>39</sup>。

「食事のあときまってあの症状（のどが締めつけられるような気がする：前文より）が激しく現れてくるので、臨床講義に出席しても前ほど楽しくなかった。われわれをベッドからベッドへと連れ歩く時の先生（訳注：エールマン教授であろう）の非常な快活さとのびやかさ、重要な症候の正確な診断、病気の経過全般の判断、理論とは関係なく、独自の経験から、知識から、知識の形をとって現れるヒポクラテス的な処置法、いつも授業の終りを飾る締めくくりの話、これらすべてが私を先生にひきつけ、垣間見るだけの専門外の科目を、一段と魅力ある好ましいものにした」（詩と真実、第三部）<sup>40</sup>

ゲーテは、このヒポクラテスの箴言を『ファウスト』で、ファウストの台詞ではなく、ワーグナーとメフィストフェレス（メフィスト）の台詞として、二箇所引用している。

以下、原典は主としてハンブルグ版<sup>41</sup>を、日本語訳は手塚富雄訳<sup>39</sup>を採用した。日本語訳は原典の前後の行を含めての訳もあり、原典の行とは、必ずしも完全には一致していないが、ここでは、主たる1行のみを記した。558は558行を、558fは558と559行を示している。

Wagner. Ach Gott! die kunst ist lang,

Und kurz ist unser Leben. (558f) (Hamburger Ausgabe, 1972) <sup>41, 42-44</sup>

Wagner. Ach Gott! die kunst ist lang!

Und kurz ist unser Leben. (Reclam, Stuttgart Ausgabe, 1986) <sup>45, 46</sup>

Mephistopheles. Die Zeit ist kurz, die kunst ist lang. (1787) <sup>41</sup>

ワーグナーの台詞は、ハンブルグ版<sup>41</sup>、記念版<sup>42</sup>、ゾフィー版<sup>43</sup>、国立文学史家版<sup>44</sup>ではlang,であるが、レクレム文庫版<sup>45</sup>、ブレマー版<sup>46</sup>ではlang!と、langに感嘆符！（以後、！）がついている。ヒポクラテスの箴言とは、術と人生の順序が逆である。日本語訳は、ワーグナー ああ！芸術はながく

人生はみじかしてございます。（手塚富雄訳）<sup>39</sup>

であるが、生命、人生、と、芸術、技芸の道と、翻訳者により訳語は多少異なっている<sup>45-47</sup>。また、！を入れない訳もある<sup>47-49</sup>。メフィストの台詞は、

メフィスト つまり、人生はみじかした、芸術は長いがね。（手塚富雄訳）<sup>39</sup>

メフィストの台詞では、unser Lebenがdie Zeitになっているが、手塚訳<sup>39</sup>、大山訳<sup>49</sup>では両者共に人生、相良訳<sup>47</sup>、高橋訳<sup>48</sup>では歳月と訳している。Leben (Zeit)とKunstは、『全集』と同じ順序で引用されている。

『ファウスト初稿』によれば、ゲーテは、この箴言を、最初、下記の如く書いていた。

Wagner, Ach Gott, die Kunst ist lang

Und kurz ist unser Leben! (Urfaust 205f) (ハンブルグ版、ゾフィー版) <sup>41, 43</sup>

Wagner. Ach Gott, die Kunst ist lang,

Und kurz ist unser Leben! (記念版、国立文学史家版) <sup>42, 44</sup>

それによると、『ファウスト初稿』と『ファウスト』とでは、言葉は同じであるが、!の位置が異なっている。『ファウスト初稿』では、Leben!であるが、Ach Gottには!が付いていない。lang, か, langかは、版により異なっている。

それでは、ゲーテは、ワーグナーとメフィストとの台詞で、何故、生命と術の順序を変えて引用したのか。これを、第一の問題点として考察した。次に、ワーグナーの台詞には、箴言にはないAch Gottが付けられており、さらに、『ファウスト初稿』と『ファウスト』とで、!の位置に差異が認められるが、それには、何か意味があるか、また、langは、版により異なり、「lang」, 「lang,」, 「lang!」の三つがある。これらを第二の問題点として考察した。

## 考察

### 第一の問題点、何故、順序が変わったか

ワーグナーの台詞についてのファウスト研究家の解釈は、ワーグナーの知ったか振りを皮肉ったと言われている(新渡戸稲造)<sup>50</sup>。「紀元前四百年前頃のギリシアの医者 Hippokrates の格言：ars longa, vita brevis. の訳。第四場に於てこの言を Mephisto が繰り返している。この所では術学的特性を明示するために Wagner をして古典の引用を為さしむ」(青木昌吉)<sup>51</sup>。「Wagner は、古典の教養があることを証明するために、古人の言葉を盛んに引用してみせる。Seneca がラテン語化した Hippokrates の言葉 “Ars longa, vita brevis” を、これみよがしに引いたものである」(高橋義孝)<sup>52</sup>と注釈されている。

大山定一<sup>49</sup>、青木昌吉<sup>51</sup>、高橋義孝<sup>52</sup>、松浦敏幸<sup>53</sup>、木村謹治<sup>54</sup>らの解釈はほぼ一致して、ワーグナーの知ったかぶりを皮肉ったとしているが、これらの注釈では、生命の術の順序が逆転しているラテン語訳の箴言を、ヒポクラテスの箴言として引用している。ここでは、古典を原典のまま引用しても、知ったかぶりを皮肉ったことになるか、わざわざ、逆転した箴言を引用したことが皮肉ったことになるか、解釈が分かれる。

Trunz<sup>41</sup> や Düntzer<sup>44</sup> の注釈では、Wagner の台詞は、“vita brevis, ars longa” で、“Das Leben ist kurz, die kunst ist lang” であると、ヒポクラテスのギリシア語原典の順序どおりに引用しているが、台詞での順序の逆転についての注釈はない。

著者には、ワーグナーとメフィストとで、生命の術の順序を変えて箴言を引用した点については、従来の解釈だけでは疑問が残る。そこで、著者は、『ファウスト初稿』では、箴言の行末に!が付け加えられている点に注目して考察した。

『若きウェルテルの悩み』<sup>55</sup> や、『ファウスト』で、ギリシア語の新約聖書をドイツ語に訳す場面が出てくるように、ゲーテは、ギリシア語に堪能で、ラテン語よりも、ギリシア語の世界の人間であった。おそらく、ゲーテは、ヒポクラテスの箴言については、ギリシア語原典と、順序を変えたラテン語訳の両方を知っていたのではなからうか。ワーグナーの古典的教養とは、ラテン語的教養と考えられる。

他人の言葉を引用する場合、そのままの引用と、異なる意味を持たせた、いわゆる、“ひねった引用”がある。著者は、ゲーテがワーグナーの台詞で、箴言の順序を変えて引用したのは、原典とは異なる意味を持たせたもので、術を生命より強調した、いわゆる、“ひねった引用”で、それを示すために行末に!を付け加えたと推測した。

台詞が版により異なる点については、編集者がゲーテ手稿をどう判読したかの問題で、どちらが正しいかは、手稿を見ない読者には判断しがたい。しかし、『ファウスト初稿』での「lang」と「lang,」とはいざしらず、『ファウスト』での「lang,」を「lang!」と読み違えたとは考え難い。逆も同様である(次節も参照)。それでは、何故、異なる二つの版が出たかについては、著者は、『ファウスト初稿』での「Leben!」の!が、『ファウスト』改変では消されて「lang!」に移った中間稿があり、後に、最終稿では「lang!」の!が消されたと推論した。消去した理由は後述するが、ゲーテ手稿での!の消去が不完全だったためであろう、「lang,」か「lang!」かの判断が、編集者で分かれたと考えた。いずれにしろ、「kurz ist unser Leben!」と「die kunst ist lang!」に、!が付けられた版があることは、ゲーテがワーグナーの台詞で、術を生命より強調したことを示す傍証と考えられる。

一方、メフィストの台詞では、ファウストに対して、「早く支度をして、新しい世界に出発しよう、人生は短い、



急げ」の意味で、術は関係ないことから、箴言をそのままの順序で引用し、！を付け加えなかった。ゲーテはヒポクラテスの箴言のギリシア語原典と、世間に流通している順序の逆転しているラテン語訳を使い分けたと推測した。

### 『ファウスト初稿』と『ファウスト』との感嘆符の差異

引用された箴言は『ファウスト初稿』と『ファウスト』とで感嘆符の位置が異なるが、『ファウスト初稿』はゲーテが青年時代の作品、『ファウスト』は高齢になってからの書き直しで、『ファウスト初稿』は『ファウスト』の原点を知る上で、興味が持たれる。

『ファウスト初稿』<sup>41</sup> 1 - 248 行と、『ファウスト』<sup>41</sup> 354 - 605 行は、悲劇第 I 部、夜の前半で、この箴言はこの箇所に含まれている。多少の違いはあるが、行と台詞はほぼ一致しているので、この箇所の両者の！の用法の違いを比較検討した。

台詞が対応している箇所で、どちらかに！が使用されているのは 64 行で、その中、！の使用法が同じ台詞は、33 行、51.6% で、半数ちかくは異なっている（表 1）。！の追加が 22 行、削除が 9 行あり、とくに、ファウストの台詞では追加 18 行と削除 6 行と多く、以下、ワーグナーでは追加 4 行と削除 2 行、霊は削除 1 行である。

Weh! Ha! O Tod! の用法は、『ファウスト初稿』と『ファウスト』の夜では同じである（表 1）。これに対して『ファウスト初稿』の ach（1, 39, 101, 177）の 4 行すべてと、ach Gott（205）の計 5 行は、『ファウスト』では、ach!（354, 392, 454, 530）と、ach Gott!（558）に変わっているのが特徴的である。

表 1 『ファウスト初稿』と『ファウスト』悲劇第 I 部 夜：！の用法の差異

『ファウスト初稿』『ファウスト』

1～248 行	354～605 行	！	行数	行末	その他：用例
！なし*	！あり	追加	22	15	7：ach! ach Gott! Verzeiht!
！あり**、**	！あり	同じ	33	28	5：Weh! Ha! O Tod! Flieh! Auf!
！あり	！なし	削除	9	7	2：Du! Auf!
！あり	対比する行なし		2	2	0
対比する行なし	！あり		1	1	0

総計 44 行 56 行

末尾 37 行 (84.0%) 44 行 (78.6%) その他 7 行 (16.0%) 12 行 (21.4%)

\* ! 複数使用例を含む (4 行)

Faust. Welch Schauspiel! aber, ach, ein Schauspiel nur! (Urfaust 101)

Faust. Welch Schauspiel! Aber, ach! ein Schauspiel nur! (Faust 454)

Faust. Du mu ßt, du mu ßt! Und kostet es mein Leben. (Urfaust 129)

Faust. Du mu ßt! du mu ßt! und kostet es mein Leben! (Faust 482)

Faust. Weh! ich ertrag dich nicht. (Urfaust 133)

Faust. Weh! ich ertrag' dich nicht! (Faust 485)

Faust. Das ist deine Welt, das heißt eine Welt! (Urfaust 56)

Faust. Das ist deine Welt! das heißt eine Welt! (Faust 409)

\*\* ! 複数使用例を含む (Urfaust と Faust とで同じ台詞) (3 行)

Faust. Ha! wie's in meinem Herzen reißt! (Urfaust 125, Faust 477)

Wagner. Allein die Welt! des Menschen Herz und Geist! (Urfaust 233, Faust 586)

Faust. Flieh! Auf! hinaus ins weite Land! (Urfaust 65, Faust 418)

\*\*\* 版により異なる (1 行)

Faust. Und nicht einmal dir? (Urfaust 164)<sup>39</sup> (ハンプルグ版は!の代わりに?)

Faust. Und nicht einmal dir! (Urfaust 164)<sup>40-42</sup> (Faust 517)<sup>39</sup>

33行中、28行、84.8%は行末に!がつけられている。

Faust. Hab nun, ach, die philosophie, (Urfaust 1)

Faust. Habe nun, ach! Philosophie, (Faust 354)

ああ、こうしておれは哲学も、(手塚富雄訳)<sup>37</sup>

Faust. Welch Schauspiel! aber, ach, ein Schauspiel nur! (Urfaust 101)

Faust. Welch Schauspiel! aber, ach, ein Schauspiel nur! (Faust 454)

すばらしい見物だ。しかし、ああ、やはり一つの見物にすぎぬ。

Faust. Und bin so klug, als wie zuvor, (Urfaust 6)

Faust. Und bin so klug, als wie zuvor! (Faust 359)

以前にくらべてちっとも賢くなっていない。

『ファウスト初稿』には!があるが、『ファウスト』では削除された例は、9行あった。

Faust. Auf ! bade, Schüler, unverdrossen (Urfaust 92)

Faust. Auf, bade, Schüler, unverdrossen (Faust 445)

起て、学徒よ、誓って退転することなく、

Faust Und sehe, da B wir nichts wissen können! (Urfaust 11)

Faust Und sehe, da B wir nichts wissen können, (Faust 364)

そして知ったのは、おれたちは何も知ることができないということだけだ。

「!」(Urfaust417)と「;」(Faust 2023),「!」と「?」(表1)と異なる版がある。これらの記号は類似点もあるが、「;」と「!」との読み違いは考え難い(前節参照)。

### 『ファウスト』での感嘆詞、感嘆符の用法

『ファウスト』には多くの感嘆詞<sup>56</sup>(3.0%行あたり)や感嘆符(19.2%行あたり)が使用されている(表2)。Ach, ach! と o が多い。「Ah! は感嘆詞で(自然の嘆息音) ach! よりも軽い、喜悦、怪訝、驚愕、思いつきなどを表す。ach Gott ! は感嘆的用法。Ha! は ah! よりも強く、o は次に他の語を伴い、一般に感情を示す」とある<sup>56</sup>。

感嘆詞と感嘆符の頻度は人物と場面で異なり、気分の高揚を知る上で重要であるが、日本語訳は、意味はともかく、表現は難しく、無視される場合もある。一般に、日本語では感嘆詞や感嘆符の多用は、煩わしく感じられることも一因と考えられる。

『ファウスト』では、感嘆詞、感嘆符の頻度は、ファウストやマルガレーテで高いが、酒場の学生、市門の前での兵士や農民の歌、マルテの台詞ではさらに高く、メフィストやワーグナーでの頻度は低く、道化は最低頻度である。(表2)。

! は命令形(224, 323, 418)、文末につけて文の意味を強調、感嘆詞(ach! Ha! Weh! Ei! o! ach Gott!)につけて感情を強調するが、さらに気分が高揚した場合、! の複数使用が考えられる(表1も参照)。! の複数使用例としては、感嘆符をつけた感嘆詞を併用している例(454, 477, 485, 872, 1256, 4515)がある。

Margarete Ach Gott! was hast du getan! (4515, 牢獄の場面)。

まあ、何をなさったの、あなた。

Juchheisa! heisa! などの繰り返しの歌(955, 963, 970)、同じ言葉の重複使用例(409, 481)、同じことを表している例(586)では、「世界と申すもの」と、「人間の精神と心情といわれるもの」(手塚富雄訳)の両方に! が付けられている。ただし、同じ言葉の重複使用例でも、! の複数使用例(409, 481)と、後ろの言葉のみに! を付ける単数使用例がある(929, 1651)。『ファウスト』での追加では、前の言葉にも! が付け加えられている(表1)。

これ以外に、とくに、詩人の気分が高揚していると感じさせる台詞で、！の重要な複数使用例がある。いずれも命令形で、二つの台詞をそれぞれに強調している。

表2. 『ファウスト』悲劇第I部の主要登場人物の台詞：感嘆詞\*，感嘆符の頻度\*\*

主要登場人物	行数	！（％）	！複数（％）	感嘆詞（％）	ach	ach!	ach Gott!
ファウスト	1124	232 (20.6)	34 (3.0)	37 (3.3)	4	8	
メフィスト	925	128 (13.8)	12 (1.3)	8 (0.9)	3		
ワーグナー	108	14 (13.0)	1 (0.9)	4 (3.7)		1	1
座長	96	7 (7.3)					
詩人	58	6 (10.3)	1 (1.7)	2 (3.4)		1	
道化	56	3 (5.4)	1 (1.8)				
学生	54	4 (7.4)		1 (1.9)			
主	33	3 (9.1)					
霊	28	3 (10.7)					
酒場の学生4人	188	66 (35.1)	12 (6.4)	8 (4.3)	1		
歌（農民，兵士，乞食）	59	16 (28.8)	8 (13.6)	6 (10.2)			
コーラス（使徒，天使）	41	7 (17.0)		2 (4.9)		2	
マルガレーテ	477	110 (23.1)	23 (4.8)	22 (4.6)	9	4	3
マルテ（隣の女）	85	25 (29.4)	8 (9.4)	10 (11.8)	2		1
ヴァレンティン（兄）	90	25 (27.8)	2 (2.2)	2 (2.2)			
リースヒェン（友人）	27	8 (29.6)					
計	3415	657 (19.2)	101 (3.0)	102 (3.0)	19	16	5

\*，感嘆詞，感嘆的用法<sup>54</sup>，

: Ach, Ach Gott, O (39; o weh 3を含む)，Weh (4)，Ei (3)，Ha (3)，Topp (2)，Pfui (2)，bravo, brav, Ah, Aha; A (2)，Holla, Juchhe, Juchheisa, He (歌)

\*\*，行当たりの頻度

備考：魔女の厨，聖堂，ワルプルギスの夜，ワルプルギスの夜の夢は省略

Faust. Flieh! Auf! hinaus ins weite Land! (Urfaust 65, Faust 418)

さあ，逃げ出せ．広い世界へ出て行け．

Faust. Verweile doch! du bist so schön! (Faust 1700)

「とまれ．おまえはじつに美しいから」と言ったら，

この有名な台詞は，悲劇第II部では，

Faust. Verweile doch, du bist so schön! (Faust 11582)

「とまれ．おまえはじつに美しいから」と．

に変わっているが，！の単数使用と複数使用とで，意味や気分が異なると考えられる．

ワーグナーの台詞（558）には，ヒポクラテスの箴言にはない Ach Gott! が付けられているが，箴言の二つ前の台詞には，Ach! と Und があり，これに対応していると考えられる．

Wagner. Ach, wenn man in sein Museum gebannt ist,

Und siet die Welt kaum einen Feiertag, (Urfaust 177f)

Wagner. Ach! wenn man in sein Museum gebannt ist,

Und sieht die Welt kaum einen Feiertag, (Faust 530f)

わたくしのように研究室にばかり閉じこもっておりまして、  
世間をみるのも、日曜日などにほんのときどき、

Ach Gott の使用例は、『ファウスト』悲劇第 I 部では、5 箇所のみで、すべて ach Gott! である (表 2)。ワーグナー (558)、マルガレーテ (2895, 2908, 4515)、マルテ (2992) の台詞で、ファウストの台詞には使われていない。なお、『ファウスト初稿』では、ach Gott (205, 762) と ach Gott! (748, 846) の両方が使われている。

Ach Gott! は感嘆的用法で、日本語訳は、「大変です」「さあ、たいへん」「そんなこと」「まあ」「さあ!」「いやはや」「さようぞございますな」「いやはや、何と申しましょうか」など、いろいろあるが<sup>37, 45-47</sup>、強い感嘆詞ではないと考えられる。箴言の場面での日本語の意味としては、「何と申しましょうか」<sup>47</sup> で良いと考えられる。

ワーグナーの台詞 Urfaust 177 では強い ach であるのに対して、箴言 (205) では、ach Gott を用いて、軽い気分を表していると考えられる。これらの台詞は『ファウスト』では、ach! (558) と ach Gott! (503) である。

### 感嘆詞と感嘆符からみた登場人物の性格

感嘆詞、感嘆符は登場人物の性格、気分を表している。悲劇第 I 部前半夜では、ファウストの台詞に!が多く、理性の高揚が感じられる台詞が多い。前半全体では ach!10 箇所、ach 1 箇所中、ファウストは ach! が 7 箇所と多いのに対して、ach は 1 箇所 (1194) のみである。後半では、マルガレーテの感情的な ach (9 箇所) と ach Gott! が多く、ach! はファウストは 1 箇所のみ (2697)、マルガレーテは 4 箇所である。気分が最高潮に達する悲劇第 I 部最後の曇り日、夜、牢獄の場面 (4405 - 4615) では、ファウスト、マルガレーテ共に!を複数使用し、気分の高揚が感じられる。酒場の学生、市門の前での兵士や農民、マルテは、感嘆詞と!の頻度、ならびに、!の複数使用の頻度が高く、陽気である。一方、座長、主、メフィストではその頻度は低く、冷静に台詞を述べている (表 2)。

Direktor. Was heute nicht geschieht, ist morgen nicht getan, (Faust 225)

座長 今日できないようなら明日もだめ、

Der Herr. Es irrt der Mensch, solang' er strebt. (Faust 317)

主 人間は努力するかぎり迷うものだ。

Mephistopheles. Grau, teurer Freund, ist alle Theorie,

Und grün des Lebens goldner Baum. (Urfaust 432f, Faust 2038f)

いいかい、きみ。すべての理論は灰色で、

みどりに茂るのは生命の黄金の樹だ。

座長、主、メフィストのこれらの有名な台詞には、感嘆詞も感嘆符も付けられていない。道化の!の頻度は最低で、道化 (Lustige Person, 陽気な人) 自身は、決して陽気ではない。ワーグナーの感嘆詞は 4 箇所、!の複数使用例は 1 箇所 (586) のみと少なく (表 2)、verzeiht! (ご免下さいまし) にも!があり (522, 570)、気分の高揚は感じられない。

『ファウスト』を理解する上で、感嘆詞の種類や、!の「有無」は、重要である。!は、付いていることに意味があるが、それが単数であるか、複数であるか、また、逆に、!が付いていないことにも、それなりの意味があると考えられる。

感嘆詞と感嘆符の用法から見て、『ファウスト』では、ach! は強く、次に ach で、ach Gott! は、ach よりも軽く、ach Gott! は ach Gott より多少強く、Ah bravo! はメフィストの台詞 (3026) で使用されているが、軽い用法と考えられる。

第二の問題点、何故、!の位置が変わったか：まとめ

ゲーテが、どのように考えたかは、推測の域をでないが、『ファウスト初稿』では、術を生命より強調するために、

箴言の順序を変え、さらに行末に！を追加して、原典とは異なる意味で引用したことを示した。また、箴言の二つ前の台詞に、Ach と Und があるが、これに対応して、箴言に軽い Ach Gott と Und を付けたと考えられる。

ゲーテは後年、『ファウスト初稿』を久しぶりに読み直して、これを改変して『ファウスト』を完成させた時、彼の気分は高揚していたと考えられる。夜の場面では、『ファウスト初稿』の台詞をそれほど変更していないにもかかわらず、『ファウスト』では！を大幅に追加し、一部は削除している。ゲーテは、ある時は感情のおもむくままに、また、ある時は理性的、かつ、冷静に！を使用している。『ファウスト』では、全体の流れで他の台詞に合わせて、ワーグナーの台詞でも、ach と ach Gott に！を付け加えたと考えられる。

この箴言は対句で、『ファウスト初稿』での 205 末の(,)の有無も関係するが、2行で1台詞である。この台詞は、感情、あるいは、理性の高揚を示すものでも、歌でもなく、また、同じ言葉の重複使用、命令形でもない。ゲーテは、この台詞は ach Gott! 以外に複数の！をつけて強調するほど重要な台詞ではなく、一つの！で十分と考えたのであろう。『ファウスト』では、ach Gott に！を追加した時、かわりに、行末の！を削除して、！の複数使用を避けたと、著者は推測した。

### 参考文献

1. ライオンズ アルバート、ペトルセリ R ジョセフ:ヒポクラテス,小川鼎三監訳,図説 医学の歴史. 2巻, 193 - 216, 学研, 東京, 1988
2. Jones WHS: Loeb classical library Hippocrates volume IV with English translation by W.H.S.Jones, Harvard University press Cambridge, Massachusetts, London, England, 1992
3. 大槻真一郎訳編:ヒポクラテス全集 515, エンタープライズ, 東京, 1985 - 1988
4. 今裕訳編:ヒポクラテス全集 63, 1346, 名著刊行会, 東京, 昭和 53 年
5. 齊藤博:ヒポクラテスの謎 図書印刷, 東京, 1996
6. 二宮陸雄:知られざるヒポクラテス 29, 107 篠原出版, 東京, 平成 2 年
7. 柳沼重剛編:ギリシア・ローマ名言集 第3刷, 42, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 2003
8. 斎藤博:アテネの疫病はマールブルグ病, または, エボラ熱か?, 埼玉医科大学進学課程紀要 8, 15 - 25, 2000
9. 斎藤博:ヒポクラテス顔貌の色彩検討, 埼玉医科大学雑誌, 27, 127 - 134, 平成 12 年
10. デオゲネス・ラエルティオス:ギリシア哲学者列伝 下巻, 18, 123, 139, 加来彰俊訳, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 1994
11. 山本光雄訳編:初期ギリシア哲学者断片集, 17, 95, 岩波書店, 東京, 1974
12. 齊藤博:ラファエロの「アテネの学堂」について ヒポクラテスは西洋哲学史でどのように評価されていたか?埼玉医科大学進学過程紀要 7, 77 - 84, 1998
13. 斎藤博:論考 ヒポクラテスと“ラファエロの「アテネの学堂」について(斎藤, 1998)”の補注, 埼玉医科大学医学基礎部門紀要 9, 9 - 20, 2002
14. 下中邦彦編:ローマ, 世界大百科事典, 平凡社, 東京, 1981, 32 - 459
15. ブルフィンチ:ギリシア・ローマ神話, 野上弥生子訳, 152, 196, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 1996
16. ヘロドトス:歴史, 松平千秋訳, 195, 岩波書店, 岩波文庫, 東京, 1996
17. ホメロス:イリアス, 松平千秋訳, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 1996
18. アイスキュロス:縛られたプロメテウス, 呉茂一訳, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 1997
19. カール・ケレーニィ:岡田素之訳, 医神アスクレピオス, 100, 白水社, 東京, 1997
20. 小川政恭訳:ヒポクラテス 古い医術について, 32 刷, 誓い, 191, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 1996
21. 聖書 新改訳:ヨブ記 14・1, 詩篇 90 - 10, 794, 916, 日本聖書刊行会, 東京, 1998
22. 中村元訳:古い, プッダのことば スッタニパータ. 39 刷, 第四 八つの詩句の章, 181, 293, 437, 岩波文庫,

岩波書店, 東京, 2002

23. 金谷治訳注：論語 第7刷, 35, 156, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 2003
24. 岡田明憲：ゾロアスターの神秘思想, 13, 講談社, 東京, 1989
25. 伊藤義教：ゾロアスター研究, 3, 43, 92, 岩波書店, 東京, 1980
26. 廣川洋一：ソクラテス以前の哲学者 343, 講談社, 東京, 1997
27. Goold GP : de brevitae vitae, The Loeb classical library edited by G.P.Goold. Seneca moral essays II with an English translation by John W.Basore, 286, Harvard University press, Cambridge, Massachusetts, London, England, 1996
28. セネカ：人生の短さについて 33刷, 茂手木元蔵訳, 9, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 1997
29. 高橋保行：イコンのこころ 52, 162, 春秋社, 東京, 2003
30. 高橋保行：ギリシャ正教 36, 42, 講談社, 東京, 2002
31. 今田達：ビザンチン時代以降のイコン 望遠郷 13, アテネ 38 - 39, 同朋舎, 東京, 199
32. 国立西洋美術館監修：ゴッホ展, 「名所江戸百景」《亀戸梅屋舗》180 東京新聞, 東京 1985
33. シェクスピア：マクベス, 福田恆存訳, 112, 新潮文庫, 東京, 平成9年
34. Shakespeare W: Macbeth Edited by A.R.Braunmuller 229, Cambridge University Press, Cambridge, 1997
35. ディケンズ：クリスマス・カロール 村岡花子訳, 34, 59, 104, 新潮文庫, 新潮社, 東京, 平成13年
36. Dickens C: The Christmas Books Vol.1, A Christmas Carol, 62, 79, 107, Penguin Books, Penguin Classis, London, 1985
37. 三省堂 カレッジクラウン英和辞典：大塚高信, 吉川美夫, 河村重治郎編, 2版, 1817, 三省堂, 東京, 1981
38. 小学館 ランダムハウス英和大辞典：小学館ランダムハウス英和大辞典編集委員会編, 17版, 2389 小学館, 東京, 1991
39. ゲーテ：ファウスト, 手塚富雄訳, 中公文庫, 中央公論社, 東京, 1997
40. ゲーテ：詩と真実, わが生涯より, 山崎章甫訳, 3 - 15, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 1997
41. Goethe JW: Faust. Verlag C.H.Beck, München, 1972
42. Goethe JW: Faust. Gedenkausgabe der Werke, Brief und Gespräche. 5. Band: Die Faustdichtungen. Artemis Verlag Zürich, 1962
43. Goethe JW: Faust. Goethe Werke. Herausgegeben im Auftrage der Großherzogin Sophie von Sachsen. 39 Band. Sansyusya, Tokyo, 1897
44. Goethe JW: Faust. Deutsch National-Litteratur. Historisch-Kristische Ausgabe. Herausgegeben von Joseph Kürschner, Sansyusya, Tokyo, 1974
45. Goethe JW: Faust. Philipp Reclam jun. GmbH & Co., Stuttgart, 1986
46. Goethe JW: Faust. Verlag der Bremer Presse • München, 1925
47. ゲーテ：ファウスト, 相良守峯訳, 45, 岩波文庫, 岩波書店, 東京, 1997
48. ゲーテ：ファウスト, 高橋義孝訳, 47, 新潮文庫, 東京, 平成9年
49. ゲーテ：ファウスト, 大山定一訳, 17, 筑摩世界文学大系, 筑摩書房, 東京, 昭和47年
50. 新渡戸稲造：ファウスト物語, 新渡戸稲造全集編集委員会, 60, 教文館, 東京, 昭和44年
51. 青木昌吉：ファウスト註解 47, 郁文堂書店, 昭和3年
52. 高橋義孝：ファウスト集注 40, 郁文堂, 東京, 1979
53. 松浦敏幸：ファウスト研究 57, 木星社書院, 東京, 昭和7年
54. 木村謹治：ファウスト研究 229, 弘文堂, 東京, 昭和17年
55. 高橋義孝：若きウェルテルの悩み 13, 新潮社, 東京, 昭和29

56. 岩波独和辞典：小牧健夫，奥津彦重，佐藤通次編，第9刷，岩波書店，1959

On the Hippocrates aphorism "Life is short, the Art long"

Abstract

Hippocrates' aphorism "Life is short, the Art long" has been quoted by many authors as Seneca, Aristotle, Shakespeare, Dickens or Goethe and so on. In Goethe's Faust, this aphorism was quoted in Wagner's lines oppositely as "Art is long, Life short". I discussed meaning of "art" in ancient Greece and compared the lines in Faust with those in the first manuscript of Faust which was called Urfaust. For the purpose of stressing the art than life, Goethe changed sequence of the aphorism and added exclamation mark (!) at the end of it in Urfaust. When he revised Urfaust, he converted into "aha God!" at the top of aphorism instead of "aha God" in Faust and eliminated the exclamation mark at the end of it.

Key words: Hippocrates, Goethe, Faust, life, art

ヒポクラテスの箴言 “人生は短く 術の道は長い”

#### まとめ

ヒポクラテスの箴言“人生は短く、術の道は長い”は、セネカ、アリストテレス、シェクスピア、ディケンズ、ゲーテなど多くの著者に引用されている。ゲーテファウスト初稿では、ワーグナーの台詞で、“術のみちは長く、人生は短い”と逆に引用されている。私は、古代ギリシアでの“術”の意味を検討し、ファウストの台詞とファウスト初稿での台詞の差異を比較した。ゲーテはファウスト初稿では、術を生命より強調するために、箴言の順序を変え、さらに、箴言の終わりに感嘆符（!）を加えた。彼はファウスト初稿をファウストに書き換えた時に、ファウストでは、箴言のはじめの“ああ”を“ああ！”に変更し、行末の感嘆符を削除した。

キーワード：ヒポクラテス，ゲーテ，ファウスト，人生，術，